

マレーシア・日本国際工科院(MJIIT)に赴任して（若い世代から）



マレーシア工科大学 マレーシア・日本国際工科院
博士（工学）准教授 原 啓文

日本政府とマレーシア政府の連携によりマレーシア・日本国際工科院(MJIIT)がマレーシア工科大学のクアラルンプールキャンパス内に創設され、2011年に開校しました。私は日本側が支援する25コンソーシアム大学の一つである岡山理科大学を昨年3月末で退職し、MJIITに赴任し、早くも1年が経ちました。MJIITでは環境・グリーン技術工学科の若手の教員として、日本式高等教育法の指導および研究活動に従事しています。

マレーシアに赴任するまでは東南アジアに来たことが一度もなく、どのようなことが出来るのか楽しみで来たことを昨日のように憶えています。これまでの海外経験は、カナダのブリティッシュコロンビア大学での3年以上の滞在、その他、イギリスや他国での短期滞在が多く、東南アジアそれもイスラム圏は初めてで、多民族ならではの、生活方法とくに食事の方法が千差万別であるのには驚きました。しかし、マレーシアではマレー系、中華系、インド系に代表される民族がそれぞれの文化を尊重しあいながら成り立っている国であることを身近に感じ、新たな経験が積める期待感を楽しみながらMJIITでの教育・研究を進められることに大きな希望を持っています。

マレーシアは、熱帯雨林気候に属する多種多様な環境が揃っている地域です。また近年の経済発展の影響から大気汚染、水質汚濁など環境問題も多く発生しており、その両者の均衡をどのように取って持続的な発展につなげるかが大きな課題となっています。こちらの環境問題を解決するために、熱帯地方に特有な自然環境の機能を材料として基礎的な研究を進めながら最終的には環境汚染問題の解決と、持続的なエネルギー生産に繋がる研究技術開発が出来るよう先導し、成果を具体的に出していきたいという大きな希望を持っています。

研究では、MJIITに赴任するまで、難分解性環境汚染物質の一つであるポリ塩化ビフェニル(PCB)の微生物分解、難分解性木質化合物であるリグニンの微生物分解、抗生物質・ストレプトマイシン生合成放線菌の全遺伝子転写制御機構の解明に携わり、微

生物の機能とその応用に主眼をおいて展開してきました。マレーシアには、未知の微生物種が多く存在することが予想され、多くの有用な遺伝子資源が眠っていることが想定されます。ASEAN 地域特有の微生物の発見と機能の高度利用を目指し、アジアの若い世代を牽引出来るよう MJIIT から情報を世界に発信していきたいと考えています。

筑波大学は、この度、サテライトオフィスが開設され、活発に活動されていますので実質的な教育研究を共有し、連携によって MJIIT の発展につなげていきたいと思ひます。